

海と消費者 結ぶ役割目指す

釜石市鶴住居町の佐藤啓太さん(42)は、ITエンジニアから漁業者に転身して3月で丸4年となる。東日本大震災の復興ボランティアとして活動しているうちに愛着が深まり、2017年に移住した。県内外から漁業体験を受け入れるNPO法人理事長としても奮闘し、海の魅力を伝えている。

〈移住した釜石市で漁業者になった 佐藤啓太さん〉



ワカメの生育具合を確認する佐藤啓太さん=1月22日、大槌湾

釜 石市北部の根浜漁港を拠点に漁業を営む佐藤さん。ワカメやホタテ養殖を中心に、天然のウニ、アワビ漁もやっている。取材に訪れた1月下旬、佐藤さんは翌2月に収穫する早採りワカメの生育状況を確認するため海に出た。大槌湾の大波小波に揺られながら15分、停泊中の上下左右の揺れに体のバランスを崩しながらワカメを引き揚げた。「(生育)密度もいい。これなら大丈夫。胸をなで下ろす佐藤さん。これから海水温の低下に伴ってさらにぐんと大きくなるんですよ。佐藤さんが話した通り、自信を持って出荷できる品質に成長した。佐藤さんは愛知県北名古屋市出身。大学卒業後に民間企業にITエンジニアとして就職した。

釜石市とつながったのは2012年、東日本大震災の復興支援で通っているうちに、市民と仲良くなり「親戚みたいに関係になった。復興にも引き続き携わりたい」と決意し移住。市の復興まちづくりを支援する釜石リージョナルコーディネーター(通称・釜援隊)の隊員となった。活動先はNPOおはこぎき市民会議で、復興まちづくりなどを担当。漁業体験の受け入れにも関わっていくうちに、漁業に携わりたいという思いが膨らんだ。釜援



とれたての生ワカメはしゃぶしゃぶが一番。左は佐藤啓太さん、右は妻奏子さん

早 採りの生ワカメをしゃぶしゃぶで食べるのが三陸の春の風物詩。シャキシャキの食感と口に広がる磯の香りが魅力だ。佐藤啓太さん、奏子さん夫婦、一帆君と水揚げしてすぐのワカメをしゃぶしゃぶで味わった。

まずはワカメを軽く水洗いし、食べやすい大きさにざく切りする。この間に、大きな鍋でお湯を沸騰させておく。ワカメを沸騰したお湯に数秒くぐらせて、しおゆやポン酢、ゆずボなどお好みのたれで味わう。奏子さんのお薦めは地元漁家の先輩お母さんから習った手作りのたれつゆ。酒とみりんとうしょうゆを沸かして冷まし、おろししょうがやネギを加える。奏子さんは「手作りのたれつゆで食べるワカメしゃぶしゃぶは一層おいしさが増す。手作りして家庭の味になり、息子が「お母さんの味だ」と思い出してくれたらうれしい」と願う。

企画制作/岩手日報社総合ビジネス局

釜 石市の観光地域づくり法人「かまいしDMC(河東英宜代表取締役)」は、地域の日常生活や仕事を紹介する体験型のプログラムを開発・提供している。漁業体験は受け入れ先のNPOおはこぎき市民会議(佐藤啓太理事長)に紹介。両者が手を携えて釜石の漁業文化の魅力を発信し、ファンづくりを進めている。かまいしDMCは地域の宝を発掘し、漁業や東日本大震災の伝承、防災、ラグビー、マリンスポーツ、環境などの体験コンテンツを整備。観光客に地元の産業や暮らしの魅力を伝え、交流人口増加を目指している。



漁業体験に興味津々の子どもたち。左は佐藤啓太さん

NPOおはこぎき市民会議で受け入れている漁業体験は、ワカメ収穫は1月下旬から3月上旬、ウニ殻むきは5月から7月上旬ごろがシーズン。ホタテのハタキ(貝殻の付着物除去)や浜焼きは4、12月に体験できる(生育や海の風波の状況により、体験できない場合もある)。体験者は中高大学生や、企業研修で訪れる社会人ら。漁業の様子に興味津々で、とれたての魚介類のおいしさに歓声を上げる。日本では食用魚介類の消費量の減少が著しい。佐藤さんは「体験者を見てみると漁業に無関心なわけではない。産地側から消費者に歩み寄って体験してもらうことが消費を向上させる一手になるのでは。おいしい魚介類があるのに、食卓で食べないのはもったいない」と語る。かまいしDMCで漁業体験受け入れ窓口を担当する佐藤さんの妻奏子さんは「漁業文化を体験することは深い教育につながる。体験で出会った漁業者や釜石のファンになってもらい、「つながらり人口の増加」を図っていきたい」とPRする。

漁業の魅力伝えファンづくり

みんなで知ろう。考えよう。ALPS処理水のこと

ALPS処理水は、放出前に分析を行い、放射性物質が基準を満たしていることを必ず確認するなど、厳格に管理されて放出されています。これまでのところ、放出前・放出後のモニタリングの結果、いずれも問題のある数値は見られず、安全性が確認されています。

最新の状況※

基準を満たす

現在の状態※

異常なし

ALPS処理水の分析結果

東京電力及び第三者機関のJAEAが放出前のALPS処理水の分析を行い、いずれも基準を満たしていることを確認しました。
※2024年9月4日に採取を行ったALPS処理水(K4-Bタンク) ※基準:トリチウム以外の告示濃度比総和1未満

海域モニタリング結果 (海水・魚に含まれるトリチウム)

東京電力福島第一原子力発電所近傍海域のモニタリング結果について、異常はありません。
※最新の各機関での分析結果をもとにしています

一目でわかるマーク形式でモニタリングの結果を表示しているページはこちら その他、ALPS処理水に関する情報はこちら [みんなで知ろう ALPS処理水](#) [検索](#)